

Glocal Tenri

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.27 No.4 April 2026

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University



4

CONTENTS

・巻頭言

「元初まりの話」の読まれ方

／井上 昭洋 1

・文脈で読む「身上さとし」(24)

明治 23 年 4 月・5 月

／深谷 耕治 2

・英語文献にみる天理教 (15)

『Japan To-Day (現時の日本)』(2)

／尾上 貴行 3

・天理図書館外史 (3)

教科書が掲載する資料

／三濱 靖和 4

・音のちから—中国古代の人と音楽 (31)

物語からみえる音の世界—外来音楽との勝負—

／中 純子 5

・ブラジルの宗教的風景 (11)

アンテベラム期の米国系プロテスタント教会による布教活動⑤

／中西 光一 6

・2025 年度公開教学講座：「元の理」の

学術的研究とその新しい展開を求めて (10)

第 10 講：「元の理」の人間学／人類学

／井上 昭洋 7

・おやさと研究所ニュース 8

2025 年度おやさと研究所 特別講座

「教学と現代」のご案内

巻頭言

「元初まりの話」の読まれ方

おやさと研究所長 井上昭洋 Akihiro Inoue

益田勝実は、『火山列島の思想』に収められた「幻視—原始的想像力のゆくえ」において、「元初まりの話」を「原始の創世神話の一面を失いながら、それに新たな一面を添えて、教祖の中に蘇った、この世のはじまりの話」として捉えた⁽¹⁾。彼によれば、「元初まりの話」は『古事記』のように神名の列挙によって天地創造の神秘を語るわけではない。しかしそこには、「驚くべき人間の<生>の苦悩の体験と、それを通り抜けてきて獲得できた、天地自然みな人間に应じてある、という底抜けの楽天主義」が表現されているという。益田はそこに、『古事記』の創世神話が内包していたはずの「原始日本の神話のエネルギー」を認めたのだった。

益田は『ムック天理Ⅱ：心のまほろば—心の本 人間誕生』にも論考を寄せている。神話研究の鉄則として、私たちは神話の誕生に立ち会うことができないとされる。神話には編纂者はいても、その原作者を知るべきがない。しかし、彼は「元初まりの話(泥海古記)」に接して、「ほんとうの神話が、しかも従来のどの伝承とも全く別のたぐいまれな思想を漶^たえた新しい神話が、創造されている！」と驚愕する。さらに、それは「記紀神話の模倣などではなく、その発想と主題において全く異なり、物語の展開と表現においても類のない壮大な神話ではないかと問いかける。

古代日本の神話を研究する益田は、神祭りのなかでの忌み籠もりの期間に、「研ぎ澄まされた心で神になっていく人」が神話を生み出すという仮説を立てていた。そうであれば、「元初まりの話」を初めて知った時の彼の驚きもうなずける。そして彼は以下のように述べる。

天理教祖の最晩年、最も高い心の境地、親神そのものになりきられている境地で、人間とはそもそもなにか、その誕生のプロセスでどのような不屈な努力

がなされたか、それがどのような親神の配慮と助けによるものであったか、存在論の根源をみずから問い進め、神意によって答えようとされつつ、それをやめられなかったことを知り、わたしは深く心うたれるとともに、多年の研究上の疑問が氷解した思いがした。神話は太古の遺物なのだろうか。その人をえて、われわれの時代にも創造しつづけられるものではなからうか。

彼は、教祖の苦難の布教体験が「元初まりの話」に投影されているというその考察を「近代の心のさかしら」と自ら戒めつつも、それが「許されない考察ではあるまい」と述べる。そして「元初まりの話」を「神の物語でありつつ、われわれの時代の直前を生きぬいた人が、そこに籠められた思想をからだで実証しながら物語ってくれたもの」と論を閉じる。

益田は、「元初まりの話」を原始的想像力のエネルギーが『古事記』とは異なるルートを辿り、教祖を通して表出したものと捉える。信仰者が自明のものとして受け取る「元初まりの話」を神話という広い文脈に位置づける彼の考察は示唆に富んでおり、深く首肯せざるを得ない。しかし、たとえ「神になっていく人」であったとしても教祖を一人の人間と見なす視点を、天理教学と相容れないと感じる者もいるだろう。だが、その一点をもって、彼の論考を拒絶するのであれば、それは信仰的な確信というよりも知的な回避であり、一種の「心のさかしら」ではなからうか。

[註]

(1) 益田勝実 (2015) 「幻視—原始的想像力のゆくえ」『火山列島の思想』講談社学術文庫、26～62頁。

(2) 益田勝実 (1978) 「根源を問い、根源を答える—天理教祖の神話創造—」『ムック天理Ⅱ：心のまほろば—心の本 人間誕生』天理教道友社、173～176頁。